

# 平成26年12月 定例（第二回） 記者会見次第

平成26年12月17日（水）  
市長公室

## 1 開 会

## 2 市長あいさつ

## 3 発表事項

（1）「飯田古墳群馬匹関連遺物」の飯田市有形文化財の指定について【教育委員会】

（2）郷土資料の寄贈について【教育委員会】

## 4 閉 会

### ☆ 今後の記者会見の予定

1月新春	1月8日（木）	9:00～	新庁舎A202
1月定例（第二回）	1月23日（金）	9:00～	新庁舎市長公室



## 「飯田古墳群馬匹関連遺物」の飯田市有形文化財の指定について



飯田の地は、5 世紀中頃に、運輸や戦において重要であった馬に関わる文化を受容しながら、当時の中央政権（大和王権）と密接な関係をもち、前方後円墳を中心とした飯田古墳群を築いた歴史を持っています。

平成 26 年 12 月 15 日に開催した教育委員会において、飯田市内の古墳から出土した馬関連の出土品について、飯田古墳群の出現の背景を語る上で重要な価値を有し、学術的価値の高い考古資料として飯田市有形文化財に指定しました。

### 飯田市有形文化財

飯田古墳群馬匹関連遺物（いいだこふんぐんばひつかんれんいぶつ） 21 点 3 式

[内訳]

- 1) 新井原・高岡古墳群 4 号土坑
  - 鉄地金銅張 f 字形鏡板付轡（テツヂコンドウハレフジガタカガミタツキツツ） 1 点
  - 鉄地金銅張剣菱形杏葉（テツヂコンドウハレケンビシガタギョウヨウ） 1 点
  - 鉄地金銅張辻金具（テツヂコンドウハレツジカガ） 15 点
  - 馬歯骨 一式
- 2) 物見塚古墳
  - 鑣轡（ハエダツツ） 1 点
  - 馬歯 一式
- 3) 茶柄山古墳群 土坑 10
  - 三環鈴（サンカンレイ）（付、環状金具） 1 点
  - 馬歯 一式
- 4) 高岡 4 号古墳
  - 鑣轡（ハエダツツ） 1 点
- 5) 新井原 2 号古墳
  - 木芯鉄板張輪鏡（モクシンテツイタハリワブミ） 1 点

内容の詳細については別紙によります。

#### 添付資料の有無

なし  あり（別添のとおり）

#### 飯田市ウェブサイトへの掲載

なし  あり

後日掲載（12 月 19 日頃）

#### 発表の趣旨

政策・施策・事業等の発表

イベント等の事前告知

当日の取材依頼

市民・対象者等に対する周知依頼

イベント・事故等の事後告知

その他



住み続けたいまち 住んでみたいまち 飯田

## 文化経済自立都市

lida City <http://www.city.lida.lg.jp/>

問い合わせ先：教育委員会事務局

生涯学習・スポーツ課

担当：馬場 保之

電話：0265-22-4511

内線：3575

いいだこふんぐんばひつかんかんれんいぶつ  
飯田古墳群馬匹関連遺物について

- 1 所有者 飯田市
- 2 保管場所 飯田市考古資料館（飯田市上川路 1004-1）
- 3 年代 5 世紀中頃から後半
- 4 指定根拠 飯田市文化財保護条例第 2 条（1）飯田市有形文化財  
飯田市文化財保護条例施行規則第 4 条 別表（指定基準）

種別	指定基準
飯田市有形文化財 9 考古資料	左記のうちこの地方にとって (1) 学術的価値の高いもの

5 指定理由

- 飯田地域では、5 世紀後半から 6 世紀にかけて 22 基の前方後円墳と、5 基の帆立貝形古墳が連続的に築造されました。座光寺・上郷・松尾・竜丘・川路の 5 つの単位群からなる飯田古墳群は、5 世紀後半から突如として前方後円墳の築造が始まるという一体性を有している一方、それぞれの単位群で石室構造等に多様性を有し、さらに、いくつかの古墳には飯田型ともいえる形態がみられる独自性を有しています。
- 飯田古墳群は、古墳時代中頃以降に、飯田地域が内陸交通の要衝に位置する地の利を活かし、また、馬に関する文化の受容を重要な契機として、一体性、多様性、独自性をあわせ持つ古墳文化をつくりあげたことを示しており、律令制度を用いた中央集権国家が成立する前の時代の中央と地方との関係を地方の視座から捉えることができます。
- 今回の指定物件は、5 世紀中頃からの馬匹文化の受容を証明するものであり、飯田古墳群の出現の背景を語る上で重要な価値を有するものです。以下のとおり学術的価値の高い考古資料として、飯田市有形文化財に指定しました。

(1) 大和王権の対東北アジア政策の一環としての馬匹文化の受容の実態を示す資料です  
大陸から日本に馬に関する文化がもたらされたのは 4 世紀にさかのぼりますが、対東北アジア政策の一環として畿内中央政権（大和王権）の主導で本格的に国内で馬の生産が行われるようになるのは 5 世紀以降のこととされます。このことから指定物件は全国的にも類例の少ない馬の埋葬に伴う事例というだけではなく、当時の日本における馬匹文化の受容の実態を示す資料として重要な価値を持っています。

(2) 飯田地域に馬匹文化が定着するまでの様相を示す資料です  
指定物件は、5 世紀中頃から後半の馬と、それに伴う馬具に関する遺物であり、飯田地域に馬に関する文化がもたらされた初期の段階から定着するまでの様相を示す資料として重要な価値を持つものです。馬を介した畿内中央政権との密接な結びつきが、5 世紀後半以降に前方後円墳の築造が増加する契機となりました。

(3) 飯田地域が古墳時代においても交通の要衝地であったことを示す資料です  
古墳時代の馬は軍事目的だけではなく、内陸交通の輸送手段として重要視されており、指定物件は、飯田地域が馬を用いた交通・運輸網の発達に寄与したことを伺い知ることができる資料として重要な価値を持っています。

## 【 参考資料 】

### ① 新井原・高岡古墳群 4号土坑出土遺物

新井原・高岡古墳群4号土坑は、飯田市座光寺高岡地籍にあり、昭和55年に国道153号座光寺バイパスの建設に先立ち発掘調査を行いました。全長35mの帆立貝形古墳である新井原12号古墳の北側に位置し、土坑内には馬が埋葬されていました。鉄地金銅張轡（テツヂコンドウバリクツリ）や杏葉（ギョウヨウ）が装着されていたことから、馬具一式で飾られた飾り馬と考えられます。土坑の位置から、新井原12号古墳の被葬者に殉葬された馬と考えられます。

出土遺物のうち、f字形鏡板付轡は、鑣轡（ハシエダクツリ）に続く段階の引手の先端に直接別作りの瓢形引手壺（ヒコガカシキツボ）を付けるものです。辻金具は、馬頭部周辺から出土しており、面繫（オモガキ）に伴うものと考えられます。f字形鏡板付轡・剣菱形杏葉・辻金具は、鉄地金銅張です。年代は5世紀後半に位置づくものです。

### ② 物見塚古墳出土遺物

物見塚古墳は、飯田市松尾八幡町にあり、平成元年に飯田市立病院の移転新築に先立ち発掘調査しました。直径30m、周溝外側で直径36mの円墳で、埋葬施設は粘土槨（ネドカ）内に割竹形木棺を納めたもので、棺内には剣・短剣・漆塗り製品が副葬される他、堅櫛が装着されていました。また、周溝内からは、馬歯とその上部から轡が出土しました。古墳築造時から若干の時を経て埋葬されたものと考えられ、轡の形式から新井原・高岡古墳群4号土坑のものに先行する5世紀中頃に位置づくと考えられます。

鑣（ハシエダ）轡は、鏡板に鹿角（ロウカ）など有機物を使用した鉄製のもので、日本では初期の馬具にあたり、本古墳からは馬に装着されたと考えられる状況で出土しています。二条線引手（ヒキテ）が遊環（ユウカン）を介さず銜（ハシ）と結合するもので、鑣（ハシエダ）を固定する金具が残存していました。銜の部分に振（シヅ）りがあり、振りの回転数は多くかつ振りの凹凸が激しいものでした。

### ③ 茶柄山古墳群 土坑10出土遺物

茶柄山古墳群は、飯田市松尾上溝にあり、平成7年に国道153号飯田バイパス建設に先立ち発掘調査を行いました。土坑10は、前方後円墳の茶柄山3号古墳の北側、茶柄山2号古墳（円墳）の西側に近接して検出されました。

出土遺物は青銅製の三環鈴（円環に3つの鈴を取り付けた装飾品）で、馬歯と一緒に出土したことから、馬具として装着されたものと考えられます。中央の円環に対して鈴が不均等に配置され、円環の直径よりも鈴の直径が小さくなることから三環鈴としては古い形式です。

### ④ 高岡4号古墳出土遺物

高岡4号古墳は、飯田市座光寺高岡地籍にあり、昭和61年に旧県立飯田工業高校建設及び平成元年に市道改良工事に先立ち発掘調査を行いました。直径26.5m、周溝の幅は約2.5mで、葺石は、周溝底面に接する部分で約50cm、上部は15cm前後の石が使われ、隅間なく積まれ、保存状態はきわめて良好でした。円筒埴輪、朝顔形埴輪が出土しており、5世紀中頃に築造された円墳と推定されます。

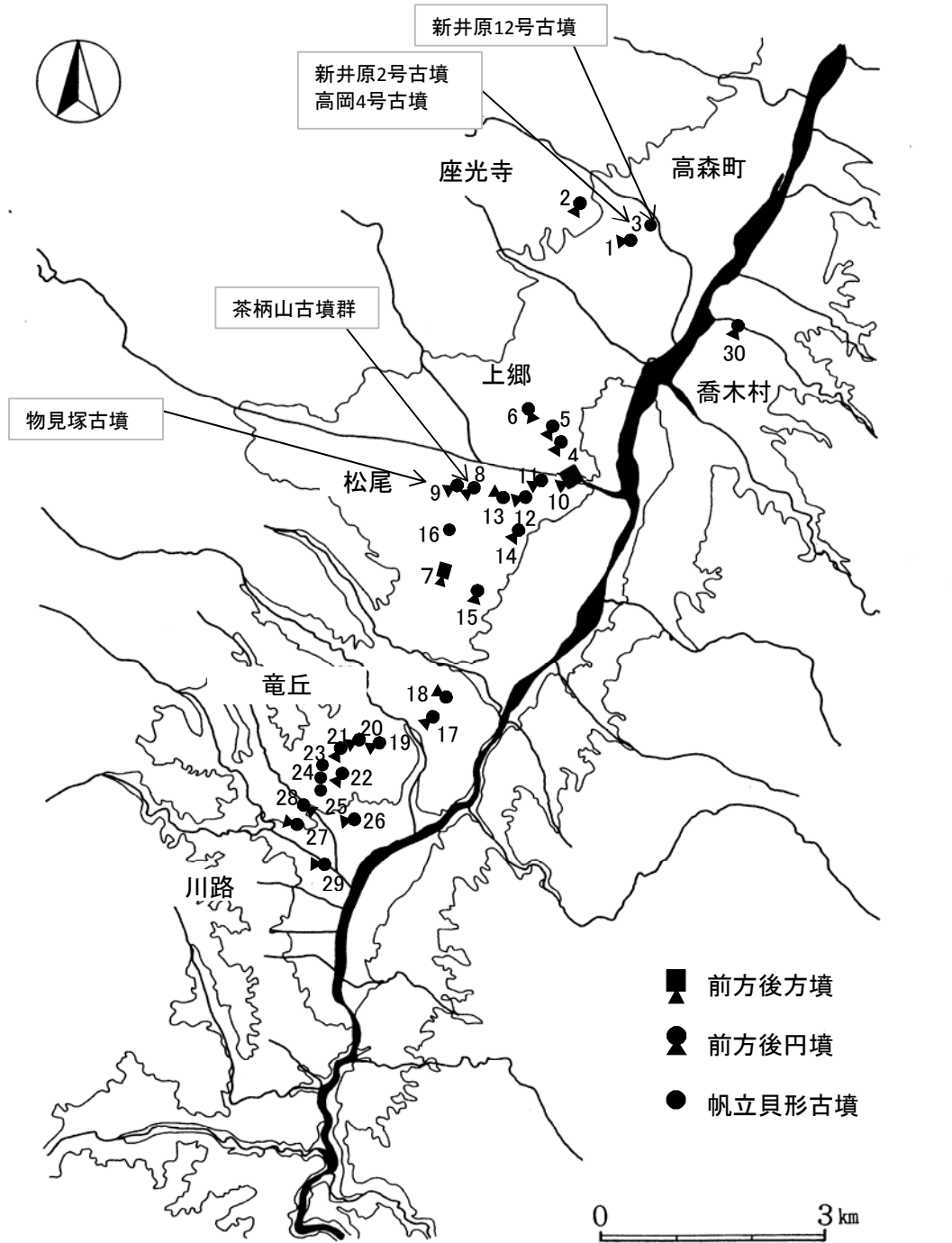
本古墳の鑣轡は馬とは一緒に出土していませんが、古墳の周溝内から馬歯が出土しています。構造的に物見塚古墳の鑣とは異なり、一条線引手が遊環を介さずに銜と結合するもので、鑣を固定する金具が残存しています。左右の引手の長さが異なることから、修理がなされた可能性が指摘されています。

### ⑤ 新井原2号古墳出土遺物

新井原2号古墳は、飯田市座光寺高岡地籍に所在し、高岡4号古墳と同様、昭和61年に旧県立飯田工業高校建設に先立ち発掘調査を行いました。高岡4号古墳の東側に位置する直径約40mの円墳で、葺石が良好に残存し、土師器・須恵器・馬具の他、埴輪片が多量に出土しました。

木芯鉄板張輪鏝は鑣轡と相前後する時期のものと考えられ、木芯鉄板張の輪鏝としては大型の部類に入ります。高岡4号古墳と同様、周溝内から馬の歯が出土しています。5世紀中頃に位置づきます。

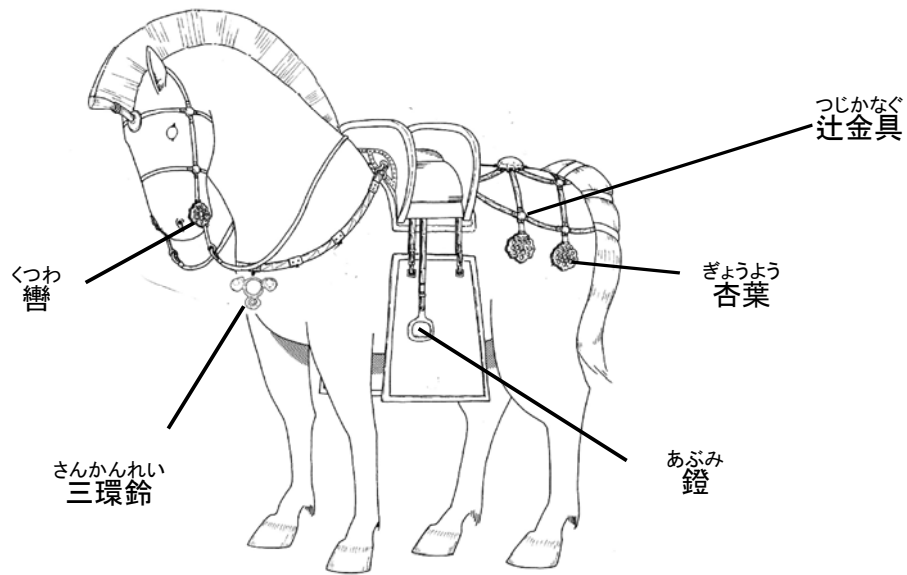
参考資料1 飯田下伊那地方の主要古墳分布図



- |     |             |              |                 |
|-----|-------------|--------------|-----------------|
| 座光寺 | 1. 高岡1号古墳   | 2. 北本城古墳     | 3. 新井原12号古墳     |
| 上郷  | 4. 溝口の塚古墳   | 5. 番神塚古墳     | 6. 飯沼天神塚(雲彩寺)古墳 |
| 松尾  | 7. 代田山狐塚古墳  | 8. 茶柄山3号古墳   | 9. 御射山獅子塚古墳     |
|     | 10. 羽場獅子塚古墳 | 11. 姫塚古墳     | 12. 上溝天神塚古墳     |
|     | 13. おかん塚古墳  | 14. 水佐代獅子塚古墳 | 15. 代田獅子塚古墳     |
|     | 16. 八幡山古墳   | 17. 権現堂1号古墳  | 18. 塚越1号古墳      |
| 竜丘  | 19. 丸山古墳    | 20. 大塚古墳     | 21. 兼清塚古墳       |
|     | 22. 塚原二子塚古墳 | 23. 塚原3号古墳   | 24. 鏡塚古墳        |
|     | 25. 鎧塚古墳    | 26. 金山二子塚古墳  | 27. 御猿堂古墳       |
| 川路  | 28. 馬背塚古墳   | 29. 久保田1号古墳  |                 |
| 喬木村 | 30. 郭1号古墳   |              |                 |

## 参考資料2 飯田古墳群馬匹関連出土遺物の名称

### 馬具の名称



#### 〔馬具〕

鉄地 f 字形鏡板付轡 (てつちこんどうばりえふじがたかがみいたつきくつわ)

「轡 (くつわ)」とは馬の口にかませて馬を制御するためのもの

「鏡板 (かがみいた)」とは「轡 (くつわ)」が馬の口からずれないようにするためにのもので、鏡板の形がアルファベットの「f」の形に似ていることから、この名前が付けられている

鉄地金銅張剣菱形杏葉 (てつちこんどうばりけんびしがたぎょうよう)

「杏葉 (ぎょうよう)」とは雲珠から繋がる革帯に下げられた装飾品

菱形の四隅を剣先の形にとがらせたもの (剣菱) の形をしていることから、この名前が付けられている

鉄地金銅張辻金具 (てつちこんどうばりつじかなぐ)

「辻金具 (つじかなぐ)」とは馬具の皮帯の交差する部分につけられる金具

三環鈴 (さんかんれい)

「三環鈴 (さんかんれい)」とは円環に3つの鈴を取り付けた装飾品

鑣轡 (はみえだくつわ)

「鑣 (はみえだ)」とは鏡板に鹿角 (ろっかく) など有機物を利用したもの

木芯鉄板張輪鐙 (もくしんてついたばりわあぶみ)

「鐙 (あぶみ)」とは乗り手が馬に乗る際に足をかけるためのもの